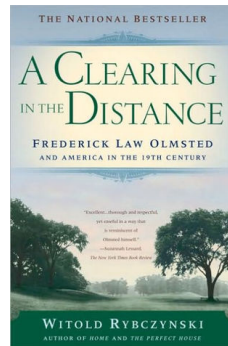




まち座

今日の建築・都市・まちづくり
Urban News Today from Japan

翻訳企画中の本の紹介（学芸出版社）



オームステッド セントラルパークを作った男

—歴史から問う公共空間の価値

公園・緑地・公共空間は何のために、誰のために生まれたのか。

150年前にセントラルパークをつくり、ランドスケープアーキテクトの父と称されるようになるオームステッドという人がいた。

専門教育は受けていない。船員、農場経営、奴隷解放のジャーナリストの後、経営参画していた出版社が倒産。直後にセントラルパークの仕事に出会った。彼がセントラルパークで目指したのは誰もがアクセスできる心身の健康を保てる都市公園。政治や経済に翻弄されながらも本質は守り抜き今日に続く公園を造りあげた。その後、南北戦争時の赤十字活動、鉱山支配人などで一旦遠ざかるも、独学と実務経験を重ねた後にプロスペクトパークでランドスケープアーキテクトの仕事に復帰、以降都市のグリーンインフラ、国立公園など公共空間と都市デザインの思想とデザインを切り拓いていく。

原著：A Clearing in the Distance “Frederick Law Olmsted and America in the 19th Century”

出版年：ハードカバー（1999年）、ソフトカバー（2000年）

原著者 **Witold Ribczynski**

モントリオールのマギル大学で建築修士号（1972年）

1980年～2015年頃にかけて多数の一般向けの建築・住宅・都市開発の本、雑誌原稿を執筆。本書は社会問題に関わる文学的にも優れた作品に授与される the J. Anthony Lukas Book Prize を獲得、Charles Taylor Prize in 2000 の最終選考に残った。

翻訳出版への想い

いま世界の大都市では、公共空間を作り替え、生活者により近い魅力ある空間にしようとする動きが盛んです。そんな中、160年前にオームステッドがどのような想いでセントラルパークの設計・施工に臨んだのか、その後の都市計画や都市公園の設計に関わっていったのかをつぶさに見てみたいと思い、英語で書かれた彼の伝記を訳してみました。

将来の都市デザインを考え、公共空間の価値を作る手掛かりになりますし、なにしろせっかく訳したものですので、できれば出版したいと考えましたが、邦訳すると600ページ近くになる大著、また彼の認知度は現時点では専門家の中に留まっているため、出版は生易しいことではないことがわかりました。勉強会などを通じて、もしも多くの方のご関心を惹くことができれば、お手元に翻訳本という形で全文をお届けできるところまで来ています。その夢に近づくため、彼の人生を読み解く勉強会も別途開催しています。ご興味を持っていただけましたら幸いです。

訳者 平松宏城（ヴォンエルフ代表取締役）

日米の証券会社勤務の後、ランドスケープデザイン／グリーンビルディングの世界に転身。環境NPOを経て、2006年にヴォンエルフを立ち上げ、以来一貫して金融システムなどとの連携を通じてグリーンビルディングと持続可能な都市ランドスケープデザインの再構築に取り組む。

翻訳出版を実現するため先行予約いただき応援ください

- 応援くださる方は下記からご予約ください。いまご予約いただくと4000円＋税（送料無料）でお届けします。

なお発売前に再度確認致します。中止になった場合はご連絡致します。ご容赦下さい。

<http://book.gakugei-pub.co.jp/wp/campaign/olmsted-book-japanese-edition-teaser/>

- 送信に不具合がある場合は、下記にお問い合わせください。
- 問合せ先：学芸出版社 前田 (maeda[at]mbox.kyoto-inet.or.jp)



仕様

判型：A5（148×210mm）上製、約600ページ、縦2段組（※すべて予定）

価格：4500円＋税（予定） 現在、翻訳権取得交渉中

株式会社 学芸出版社 Gakugei Shuppansha (a.k.a Gakugei Publishing Co.,Ltd)

会社概要などは公式ホームページをご覧ください。 <http://www.gakugei-pub.jp/>